



えと文

中 堀 愛 作

同志社人となる厳しさを

新島先生の立学の精神により、良き同志社人として育成されることがここに学ぶ者の念願でなければならぬし、これを身につけて巣立ち行く同志社校友同窓は、社会にあつては地の塩たるの使命を持つてゐる。大正六年、青二才の私が中学教師として教頭波多野先生に温かく迎へられ、先輩諸先生の実に秀れた風格の下に働くようになった時、和やかな中に、実はこの精神のしつけの厳しさを、深い尊敬をもつて感じとり、私もここで育成されたいと願つて今日に及んだ。しかし少年時をここで学び得なかつた私は、前澤先生をはじめ、加藤、柳島、玉松、本多の諸先生が母校に帰り教鞭をとられるようになり、私もその仲間に親しく入れてもらつたが、諸先生に自ら生かされているような同志社人に私は未だなり切れていないことが分つた。異質物の自分。しかしこの厳しさを私に感じさせる同志社はやはり尊い。きびしくあれ同志社。

(中学校講師・図画)